

令和4年度の取組と自己評価					
柱	教育活動への取組と自己評価	重点目標への取組と自己評価	数値目標等の達成度合い		次年度以降の課題と対応策
			4年度実績 [ ]内は3年度実績		
学 習 指 導	授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 不登校経験者の多い本校で、授業でのやりとりやペアワーク等を行い、関心・意欲、思考力・判断力・表現力、社会性を身に着けさせた。</li> <li>○ 文部科学省からSPHの指定を受け、大学、IT企業、地域と連携し、パネルディスカッション、特別講義、訪問、体験等を推進した。</li> <li>○ ICT委員会が、ICT機器を管理し各教科で活用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 相互授業見学を全教員が行い、見学報告書のまとめで研修を行った。</li> <li>★ 東部相互授業見学データベースに教員14名が登録した。</li> <li>★ SPHで、eポートフォリオ、ルーブリック評価を導入し、到達度を明確にし、生徒同士の振り返りを共有した。</li> <li>★ 本校教師道場1名、若手教員研修5名、中堅教員研修6名が研究授業を行い、教員が参観し研究協議を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ コミュニケーション力向上のため、授業でのやりとりを進める。</li> <li>▼ 要配慮生徒に寄り添った授業等の研究・公開を進める。</li> <li>▼ SPHの成果を継承する。</li> <li>▼ 情報科地域協働改革を推進する。</li> </ul>	
	履修率向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の個々の状況に応じて、単位の履修・修得等を進める支援を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 単位制版成績処理ファイルを活用し、担任等が年度当初の授業開始日から出席状況を把握するよう努めた。また、日常的な校内巡回等で授業出席を促した。伝言システムを改善し、生徒への連絡を徹底した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 単位制版成績処理ファイルを活用し、担任等が年度当初の授業開始日から出席状況を把握する。</li> </ul>	
	生徒による授業評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員の資質を向上させ、生徒の授業満足度を向上させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 「生徒による授業評価」を年2回実施し、各教科で授業改善を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 教科別職員室や教科会を活用し、専門性を高める議論を行い、授業内容、評価方法等について、生徒の実態を踏まえ共有を行う。</li> </ul>	
	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教務部・教科会で学力スタンダードに取組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 授業満足度 83%[84%]</li> <li>★ 学校評価アンケート回収率 生徒 62 [63]% 保護者 30 [31]%</li> <li>★ 学力スタンダード、週案(予定表・授業実数及び授業実数累計)、年間授業計画等を作成し、独自の学力調査を行った。</li> </ul>		
	評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科主任を中心に、教科会等で、評価基準・評価規準等を検討した。</li> </ul>			
	授業確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎時間の授業を大切にし、授業時間を確保した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の個別のニーズに応じて、補習・補講を取組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 授業を工夫し、開始・終了時刻を守らせ、生徒の授業への遅刻を減らす指導を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 生徒の授業の遅刻の扱いを再検討する。</li> </ul>
	人間と社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が地域で、異年齢の方と関わることの意義を踏まえ、「人間と社会」の指導を推進した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 道徳教育・キャリア教育・体験活動を合わせた「人間と社会」を実施した。体験活動は「お台場夏祭り」「生活実習所祭り」「ボランティアフォーラム」等、演習は本校がこれまで開校以来取組んできたソーシャルスキルトレーニング(グループエンカウンターを含む)やキャリアガイダンスを活用し、教科書を用い、生徒の意見交換などの場にもした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 都立新宿山吹高校「人間と社会」を支える会と連携し体験活動を更に充実する。</li> </ul>	
読書推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 司書教諭を中心に、業務委託による図書館運営を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図書室の利用率向上を図った。読書習慣を身に付けさせ、言語能力を高め、読書率を高めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ビブリオ委員会で、書評合戦参加生徒を支援した。</li> <li>★ 授業でディベート等も実践した。</li> <li>★ 年間貸出6493[6494]冊(延3749[3748]名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 図書室や自習室の活用を更に推進する。</li> </ul>	
生 活 指 導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の「自己管理能力」を高められるよう、担任・教科担当・生活指導部等からの指導を徹底した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 都立高校生活指導指針、特別指導計画等に基づき、課題のある生徒に即応し、必要な場合は特別指導を行った。</li> <li>○ いじめ防止委員会がアンケートを3回行い、結果を集会等で生徒に周知した。</li> <li>○ 地域・保護者と連携し、学校サポートチームを開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 毎日の日常的な定時校内巡回、生活指導室常駐等で生徒に声をかけ、授業出席、ルール・マナーの遵守を促した。</li> <li>★ 時間を意識して行動させるなど、「都立高校生活指導指針」に基づき指導した。</li> <li>★ 「SNS学校マナー」は、「大切なことは直接会って話そう。」など5項目を、定通生徒会が校内に掲示し周知した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 校内巡回で、生徒に声をかけ、授業への出席を促す。</li> <li>▼ 「SNS学校マナー」を更に校内に掲示し、周知する。</li> </ul>
	健全育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 健全育成に向けた取組みを推進し、特別な教育的支援が必要な場合に対応し、日常的な相談体制を整え、関係機関と連携し、校内チーム支援体制を整えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相談室が窓口となり、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカーと連携した。</li> <li>○ 外部障害児も招き、構造的グループエンカウンターを実施した。</li> <li>○ 相談記録を整備した。</li> <li>○ 暴力、器物損壊等には、懲戒退学含め毅然と対応する姿勢を示した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 生徒情報交換会(4・6・10月)、校内研修会(4・6・7・10月)、事例検討会(5・11・2月)、担任交流会(6・10・2月)、教育相談委員会(毎月)、教育相談交流会(6・10・1月)、専門医相談会(10月)を行い対応を学んだ。相談室・SCによる新入生全員面談等を実施した。</li> <li>★ 警察、自動車教習所、薬剤師会と連携し、セーフティー教室を3回実施した。</li> <li>★ 非公式ネット配信への注意喚起を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 教育相談委員会を活性化する。</li> <li>▼ SNSでの誹謗中傷を許さない心を育む。</li> <li>▼ 生徒対応について、学校医からの指導・助言を受ける。</li> </ul>

特別活動・部活動	社会性・協調性の育成	<p>山吹祭(定通合同文化祭)等の行事、校内外での研究発表、部活動、地域貢献・地域交流、「オリンピック・パラリンピック世界ともだちプロジェクト」等とおし、仲間をつくり、地域との関わり、ルールやマナーを学ぶ機会を得た。</p> <p>部活では、全国大会(陸上優勝)、関東大会(サッカー3位)、都大会、定通芸術祭(音楽、美術、書道、写真、演劇)等で入賞するなど活躍があった。日本舞踊部・伝統文化研究会が、山吹町会三二盆踊り大会・地域交流館まつりに協力した。日頃から、校内、学校周辺に生徒作品を展示し、温かい学校づくりを進めた。</p>	<p>★地域防災訓練(11月)は、コロナ禍のため実施できなかった。</p> <p>★本校宮城訪問プログラムは、コロナ禍のため実施できなかった。</p> <p>★都立高校合同防災キャンプは、コロナ禍のため実施できなかった。</p> <p>★各部活動への参加を奨励し、部活動加入率は38%[50%]であった。</p> <p>★体罰防止研修に取組み、年2回教員全員面談・聞き取りを行い、スローガン「その怒り6秒待つて」を掲げた。</p>	<p>▼地域交流館や地元町会等との連携により、地域との関わりを深め、自己有用感を高める。</p> <p>▼本校独自に被災地訪問を行う。</p>
健康(SSH)	学校保健安全計画	<p>学校保健安全計画に基づき、生徒の健康づくりを推進した。学校医等を迎え、学校保健委員会を年2回行った。</p>	<p>○生徒の心身の健康の課題を把握し、関係諸機関との連携を図って対応した。</p> <p>○明るさと潤いのある校内環境の整備を行った。</p> <p>○ゴミの分別を徹底した。</p>	<p>▼施設検討委員会等で、生徒の学習・生活環境改善等について検討を行う。</p>
健康	講話	<p>心身の健康の意識啓発を行った。</p>	<p>○健康講話を10月24日に開催した。</p>	<p>▼健康講話で健康の意識を高める。</p>
進路指導	進路決定者と卒業生の増加	<p>生徒に自己理解を促し、生徒の可能性を発見し、主体的に進路を選択するよう進路指導の充実を図った。</p> <p>生徒が受講しやすい補習・講習の実施を工夫した。</p>	<p>○卒業生の増加を目指した。</p> <p>○卒業生を囲む会、進路講演会・相談会、大学・会社訪問等を計画的に実施した。</p> <p>○希望者を対象に校外模試を紹介した。</p> <p>○大学入試センター試験の受験を奨励した。</p> <p>○学力調査や校内学力測定テスト(スタディーサポート)を行った。</p> <p>○共通テスト、英語外部検定の情報を随時提供した。</p>	<p>★卒業生 186[148]名</p> <p>★大学進学率 47[ 43]%</p> <p>★進路未定率 17[ 16]%</p> <p>★国公立大学 3名、早慶上東理医大21名、GMARCH等23名、日東専駒23名合格</p> <p>★就職 8名(公務員2、民間6)内定</p> <p>★センター試験出願者112[97]名</p> <p>★中退者で高認進路決定者18[19]名(うち大学合格者17名)</p> <p>★夏期講習は、極力5月に募集を開始し、教科間の重なりをなくすよう実施期間を調整した。39[47]講座の講習・補習実施・5月募集は32[40]講座</p>
募集・広報活動(地域交流等)	本校の特色の理解推進	<p>本校主催学校説明会、地域や都教育委員会主催の合同説明会等に参加し、本校の教育活動全般についての広報活動を推進した。</p>	<p>○中学校訪問を実施し、ホームページをリニューアルして情報発信を行った。</p> <p>○地域や中学校主催の進路説明会・講演会等に出向き、広報活動を行った。</p> <p>○くくり募集の維持等で、総定員を超える生徒在籍となった。最大在籍743名</p>	<p>★中学校訪問は実施できなかった。</p> <p>★ホームページを226[246]回更新した。</p> <p>★学校説明会等は、コロナ禍のため事前申込制とし、参加者を絞り込んで開催した。</p>
学校経営・組織体制・経営企画室の経営	組織体制・安全管理	<p>学校経営計画実現、円滑な学校運営のため、企画調整会議中心の学校運営を行った。管理職によるイクボス宣言を行った。</p>	<p>○P D C Aに基づいた学校運営を目指して、学校経営計画の実現に努めた。</p> <p>○管理職によるイクボス宣言を行った。働きかた改革に基づき、退勤時教把握をした。</p>	<p>▼成績処理システムを更に定着させ、操作方法の簡便化を図る。</p>
安全管理	安全管理を推進した。	<p>○安全管理の一環として、外来者、教職員の明確化を図った。</p>	<p>★ネームタグを配付し、全教職員で着用を励行するようにした。外来者にはネームタグを着用していただいた。</p>	
行管理	経営企画室長の下に事務処理を効率的に実施した。自律経営推進予算では、特に一般需用費でのセンター利用率・執行率を高めた。	<p>★企画調整会議の内容が、教職員に適時に伝わった。</p> <p>★システム部が成績処理ファイルの仕組みの理解、実務、留意点の研修を行った。</p> <p>★クラス別レターケース使用を推進した。</p> <p>★機密文書廃棄ポストの使用を徹底した。</p> <p>★定通は、相互併修、保健、部活動、行事等で連携している。</p>	<p>▼一般需用費センター利用率 46.2[49.5]%</p> <p>学校 配付執行率99.5[99.6]%</p> <p>センター配付執行率99.5[99.6]%</p>	
経営企画室	経営企画室が、学校経営に参画した。	<p>○経営企画室が、校内分掌・委員会に関わり、経営に参画した。</p> <p>○トイレの洋式化を進めた。</p>	<p>★経営企画室が、SPH研究推進、学校保健、防災教育推進、補助金審査、入試選考、修学旅行、ICT、図書館運営、給食運営、周年事業準備等の委員会に参画した。</p>	<p>▼経営企画室が、校内分掌・委員会に関わり、経営に参画する。</p> <p>▼エレベータの安全運行を維持する。</p>